

平和が丘防災タイムズ

特別記念第50号

2022.10.15

発行：平和が丘学区連絡協議会
防災委員会

皆さまお変わりはありませんでしょうか。
3ヶ月ごとに発行しております平和が丘防災タイムズも今回で
第50号を迎えました。今回は特別記念号です！是非お読みください。



最新
トピックス

学区総合防災訓練が 実施されました

実施日 令和4年6月26日(日) 参加 約140人

内容 安否確認訓練／避難所への徒歩避難訓練／
名東消防署&名東区役所による防災ビデオ放映と講話

令和2年・令和3年と新型コロナウイルス感染防止対策により
訓練が取りやめとなりましたが、今年度はコロナ感染者数が
幾分減少したこと、感染防止対策を確実に行うことで
訓練を行うことができました。

学区初の試みとして、各自主防災会(自治会)による「安否確認訓練」
「避難所への徒歩避難訓練」を実施、講話後の質疑応答の場でも、
非常食に関する質問や、耐震性に関する質問、避難所に関する質問が
相次ぎ、関心の高さをうかがうことができ、非常に有意義な訓練となりました。

名東消防署鈴木課長および平和が丘消防団山田団長、名東区役所保険年金
課堀課長からも、非常に熱心にかつ積極的な訓練であったと評価をいただきま
した。また家具の転倒防止や食料の備蓄などの自助、および住民同士による
安否確認などによる共助の必要性などを強く訴えられました。



▲ドアノブハンガー掲示確認



▲掲示確認後、本部に報告



▲防災備品を展示

平和が丘防災タイムズって何？

平和が丘防災タイムズは、平和が丘学区連絡協議会防災委員会が発行す
る機関紙です。

「学区の防災計画・報告」「防災あんしん調査票報告」「防災用具の確認結果」
「地域の防災関係ニュース」「学区内小中学校、東邦高校、愛知東邦大学、
珉光幼稚園などの防災活動」「平和が丘学区で活躍する各種委員会・団体
などの役割と活動内容の紹介」、そして非常災害時に役立てていただくため
の情報「防災お役立ち情報」も掲載し、地域の皆さまに役立つ情報を提供
しています。全戸配布しておりますので引き続きご活用ください。

今回は第50号を記念して、創刊からの変遷もまとめましたので、これま
での歴史を楽しんでいただけると嬉しいです。



第1号は、
こんな内容

記念すべき第1号は、2007年(平成19年)10月1日に発刊されました。
第1号が発刊された日は「緊急地震速報」が一般向けに運用開始された日
でもあり、記事の中で運用方法やエピソードが紹介されています。
その他、下記の記事もあり、有益な情報もりだくさんでスタートしています。
・「もろかった木造住宅」：中越地震での木造住宅などの被害状況
・地震被害体験：「貴重品はひとまとめに」「ボールが役立った!!」
「包丁が飛んできた」など

※平和が丘学区ホームページ「平和が丘だより」に、第1号から全て掲載されていますので、ぜひ読んでみてください。

平和が丘 防災タイムズ の歩み

第1号

木村元三郎氏の
編集により
2007年(平成19年)
10月1日に発刊

第2~5号

災害時の避難に関する
アンケート結果と
その分析スタート
⇒「防災あんしん調査票」
につながる

2007

第6号

注目記事
「役に立った高齢者マップ」
事例紹介：平成19年3月能登半島地震で
要支援者全員の安否確認は、
町独自作成「高齢者マップ」によるもの
(2009年(平成21年)1月1日発行)

2009

第7~22号

2代目編集担当・高木豊孝氏
3ヶ月ごとの定期発行に変更
「学区の防災訓練計画・報告」や
「防災あんしん調査票報告」
「地域の防災ニュース」のほか
「学区内学校施設の防災活動」
などを取材し掲載
(第7号：2011年(平成22年)2月11日発行)

2011

第23号~

3代目編集担当・前島一也氏
(現在も担当)
前号までの記事形態を引継ぎ
ながら、文字の大きさ・イラスト
挿入など見やすさを工夫
毎号「防災お役立ち情報」掲載
(第23号：2015年(平成27年)6月13日発行)

2015

特別寄稿

著名の先生等から防災活動に関する
ご寄稿をいただきました。ぜひお読みください。

○温故知新と知彼知己者百戦不殆で南海トラフ地震を乗り越えよう
名古屋大学名誉教授 あいち・なごや強靱化共創センター長
工学博士・構造設計一級建築士 福和 伸夫 様



○平和が丘防災タイムズ第50号の発行にあたり 名古屋市消防局 名東消防署長 河村 行雄 様
○平和が丘防災タイムズ第50号に向けてのメッセージ 平和が丘学区連絡協議会 会長 後藤 浩一郎



温故知新と 知彼知己者百戦不殆で 南海トラフ地震を乗り越えよう



名古屋大学名誉教授
あいち・なごや強靱化共創センター長
工学博士・構造設計一級建築士 **福和 伸夫 様**

温故知新という言葉があります。災害も同様です。切迫する南海トラフ地震は、100～150年の周期で繰り返し起きている地震です。すでに前回の東南海地震から78年が経っており、国は今後30年間に70～80%の確率で地震が起きると発表しています。自然は気まぐれなので、いつ起きても不思議ではありません。地震発生前後には内陸での地震活動が活発になり、富士山の噴火の可能性もあります。このような事態になれば、日本は国家存亡の危機を迎えます。ですが、皆で備えていれば、全く怖くはありません。

過去の3回の南海トラフの地震(宝永地震、安政地震、昭和地震)では歴史も転換しました。18世紀には、1703年元禄関東地震、1707年宝永地震、49日後の富士山の噴火、1708年の京都の大火で、元禄の豊かな時代が終わりました。1854年には2日連続で安政東海地震・南海地震が起き、翌年に江戸地震、さらに翌年に江戸を台風が襲い、続いてコレラが流行して、安政の大獄、桜田門外の変を経て幕末を迎えます。前回は、戦時下に1943年鳥取地震、1944年東南海地震、1945年三河地震が起き、敗戦の翌月に枕崎台風、1946年南海地震、1947年カスリーン台風、1948年福井地震が続発しました。戦災と自然災害で困難な時期を迎えましたが、1950年朝鮮戦争特需によって復興することができました。

現代も、1995年阪神・淡路大震災以降、大地震が頻発しています。地域のあらゆる力を結集して被害を減らすしかありません。対策の基本は、「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」です。自然を正しく畏れて危険な土地を避け、今の生活を点検した上で、家の耐震化や家具の固定、水や食料の備蓄を心掛けておけば、地震後の生活に困りません。近所の人も助けられます。周辺の人たちとの助け合いの力が地域社会を強くします。平和が丘学区は、名古屋の高台の安全な場所です。学区の名前のように、災害後も平和な社会を保ち、他地域の範になっていきたいと思います。



平和が丘防災タイムズ第50号 に向けてのメッセージ

平和が丘学区連絡協議会会長 **後藤 浩一郎**

何もわからない中、学区委員長に就任し学区内外約40もの役職を任せられ、その中の一つである防災・地震対策委員長を引き受け11年の時が流れた。その間「防災委員会」への名称変更、組織の充実化による新役員や新委員長指名等を経て現在に至る。

我々の主な活動は地域防災力強化のための推進計画企画、立案および実施であるが近年、地域住民の連帯意識の希薄化、個人情報保護意識の高さが活動の障害になりつつある。

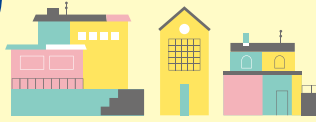
大規模災害発生時には、公助を求めることは困難であると認識する必要があるが、「自分達の街は自分達で守る」という共助意識さえも希薄になる中「自らの身は自らが守る」という自助意識を全ての住民に持ってもらうように今後も地道に働きかけることが、地域防災力の向上に繋がると考えている。

全ての住民が各自治会内の自主防災訓練や学区総合防災訓練に参加できるわけではないがせめて防災情報の充実したこの「防災タイムズ」には隔々まで目を通していただきたい。学区防災委員の皆様へ 感謝!



平和が丘防災タイムズ 第50号の発行にあたり

名東消防署長 **河村 行雄 様**



このたび、平和が丘防災タイムズ第50号記念特集号が発行されますことに、心からお祝いを申し上げます。

平和が丘学区の皆様には、平素から消防防災行政及びに火災予防に対して、格別のご理解とご協力を賜り、心より感謝を申し上げます。

大規模災害時には、「自分の命は自分で守る「自助力」と「地域の安全は地域の住民で助け合って守る「共助力」」が必要不可欠となります。災害発生時に備えて、学区単位だけでなく、町内会及び自治会単位での訓練を引き続き積極的に実施していただくことをお願いいたします。

名東消防署においては、「めいとう勝家くん」を起用してオリジナルステッカーを作成、区内の公用車に貼付し、関係機関一丸となり防災安心まちづくりをより一層取り組み、推進したいと考えております。

今後も、平和が丘学区の皆様におかれましては、ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

もしもに備える **防災** お役立ち情報

地震や台風で トイレが使えなくなる場合 があることをご存知でしょうか?



地震により水道管や下水管が破損して水が出ない・排水ができない、大雨で下水道が満水になり排水できない、マンション等では停電で給水ポンプが動かなくなり水道水を上部階まで汲み上げることができない、そんなことが起こります。こうなるとトイレが使えなくなります。普段なにげなく使っている水洗トイレは、「給水」「電気」「排水設備」が、正常に機能してはじめて気持ちよく使えるシステムなんです。

避難所等で仮設トイレを設置するまでには若干の時間がかかるため、こんな時「簡易トイレ(非常用トイレ)」があると安心できますね。

非常用トイレを用意すると安心

非常用トイレを使えば、凝固剤や吸水シートで排泄物を固めて処理できます。非常時に活躍します。携帯できるもの、便器に設置するもの、組み立て式の便器までセットされているものなど多種多様です。在宅避難でも避難所生活でも必要なものです。用意しておくといいですね。



編集後記

私が防災タイムズを担当してからいつの間にか7年が経過し担当した発行回数も半分を超えてしまいました。現在まで継続して発行できたことは、原稿作成を快くお引き受けていただけた地域の方々や印刷・配布にご協力いただいた関係者の皆さまのおかげだと感じています。今後も地域の防災・減災に役立つ情報を提供してまいりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。(前島) <第50号編集:前島・青木>



平和が丘だより 検索